



2026年3月3日

各報道機関 御中

## 医工連携による学際的アプローチで 新生児集中治療室におけるケアの質の向上 ～公益財団法人テルモ生命科学振興財団 研究開発助成金に採択～

この度、宮崎大学大学院看護学研究科 谷口光代講師らの研究グループが公益財団法人テルモ生命科学振興財団 研究開発助成金に採択され、贈呈式が開催されることになりましたのでお知らせします。

今回採択された「新生児ケア中の医療者が設定する保育器の高さが姿勢に与える影響」と題した研究は、経験則に依存してきた「保育器の高さ」を科学的に検証したものです。新生児に対する高度な治療・ケアが保育器内で提供されている新生児集中治療室(NICU)において、治療やケアの場である保育器の高さは、自由に調整が可能です。しかし、保育器の高さの設定に関する科学的根拠に基づいた指標は存在せず、医療者個々の使い易さに委ねられているのが現状でした。そこで本研究では、カメラ映像および3Dカメラを活用し、医療者の骨格情報を解析することで、保育器内ケア時に設定された保育器の高さや姿勢を数値化し、各医療者が設定した保育器の高さと姿勢との関連を明らかにしました。この結果を、将来的には医療安全や身体的負担への検討へ発展させ、医学部と工学部の連携による学際的アプローチにより、NICUにおけるケアの質の向上、医療従事者の持続可能な環境の構築に貢献します。

贈呈式当日の取材や、前後の個別の取材についてご検討いただければ幸いです。

### <テルモ生命科学振興財団・研究開発助成について>

テルモ株式会社の創業理念を背景に、生命科学・医療分野の発展を目的として設立された公益財団法人による研究助成制度で、医療現場に新たな価値をもたらす研究、将来的な社会実装が期待される研究を支援することを目的としている。研究開発助成(Ⅲ)は、同財団が定める厳正な審査を経て採択される競争的研究助成であり、看護研究も対象分野に含まれている。※応募数・採択率等の詳細な統計は公表されていない

### 記

日時：2026年3月11日(水) 15時00分～17時00分(2時間程度)

※17時から1時間程度、情報交換会を予定

場所：経団連会館 2階 国際会議場(東京都千代田区大手町1丁目3-2)

内容：研究助成 贈呈式、第5回 森下泰記念賞 受賞講演、特定研究開発助成 講演 ほか

#### <お問合せ先>

医学部看護学科 講師 谷口光代

Email: m.taniguchi@med.miyazaki-u.ac.jp

#### <発信元>

企画総務部総務広報課広報係

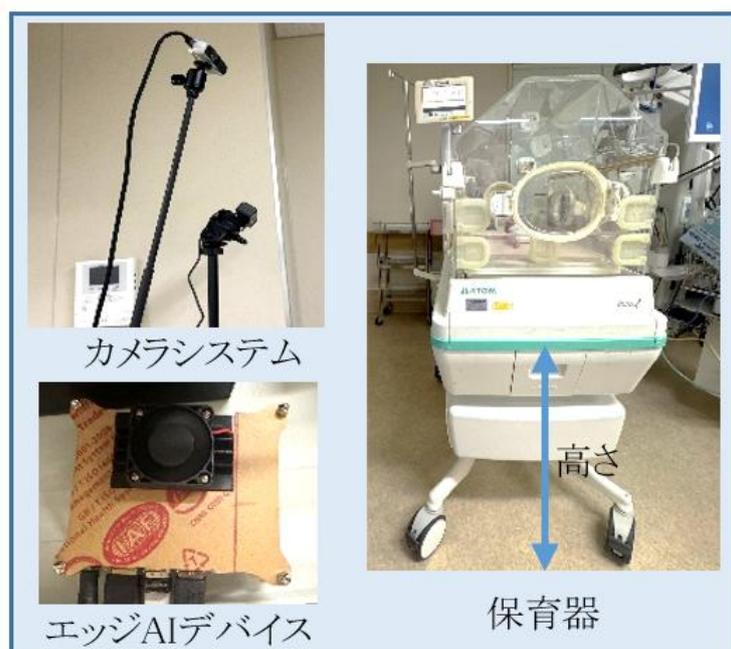
TEL:0985-58-7114 Email: kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp

## 公益財団法人テルモ生命科学振興財団 研究開発助成金採択について

### 研究名：新生児ケア中の医療者が設定する保育器の高さが姿勢に与える影響

#### 研究の要約

新生児集中治療室（NICU）では、新生児に対する高度な治療・ケアが保育器内で提供されている。この治療やケアの場である保育器の高さは、自由に調整が可能である。しかし、保育器の高さの設定に関する科学的根拠に基づいた指標は存在せず、医療者個々の使い易さに委ねられているのが現状である。そこで本研究では、カメラ映像および3Dカメラを活用し、医療者の骨格情報を解析することで、保育器内ケア時に設定された保育器の高さや姿勢を数値化し、各医療者が設定した保育器の高さと姿勢との関連を明らかにする。この結果を、将来的には医療安全や身体的負担への検討へ発展させる。医学部と工学部の連携による学際的アプローチにより、NICUにおけるケアの質の向上、医療従事者の持続可能な環境の構築に貢献できる。



▲保育器イメージ写真

#### 採択助成金

公益財団法人テルモ生命科学振興財団

研究開発助成（Ⅲ）看護研究分野

・助成金額：1,000,000 円（単年度）

## テルモ生命科学振興財団・研究開発助成とは

・テルモ株式会社の創業理念を背景に、生命科学・医療分野の発展を目的として設立された公益財団法人による研究助成制度である

・医療現場に新たな価値をもたらす研究、将来的な社会実装が期待される研究を支援することを目的としている。

・研究開発助成（III）は、同財団が定める厳正な審査を経て採択される競争的研究助成であり、看護研究も対象分野に含まれている。

※応募数・採択率等の詳細な統計は公表されていない

## 贈呈式について

<2025年度 贈呈式>

日時：2026年3月11日（水）15時～

会場：経団連会館 2階 国際会議場

内容：・研究助成 贈呈式

- ・第5回 森下泰記念賞 受賞講演
- ・特定研究開発助成 講演 ほか

## 本研究の特徴

- ・工学 × 医学による医工連携研究
  - ・NICU という高度専門医療現場を対象
  - ・経験則に依存してきた「保育器の高さ」を科学的に検証
  - ・画像解析・3Dカメラを用いた姿勢の数値化・可視化
- 分野横断的連携により医療安全に貢献

## 社会的意義

- ・医療者の身体的負担軽減
- ・NICUにおける安全で質の高いケア環境の構築
- ・医工連携による医療課題解決モデルの提示

## 研究実施体制

研究責任者：大学院看護学研究科	講師	谷口光代		
研究分担者：大学院看護学研究科	教授	金子政時		
工学部工学科	教授	川末紀功仁	特別助教	Khin Dagon Win
医学部産婦人科学分野	教授	児玉由紀		
研究協力者：医学部附属病院総合周産期母子医療センター	看護師長	渡邊祐子		